



DX / GX (GX分野)

株式会社常磐植物化学研究所

千葉県佐倉市



本社佐倉工場と太陽光パネル

抽出残渣リサイクル

立崎代表取締役

事業者名 **株式会社常磐植物化学研究所**代表者 **代表取締役 立崎 仁**所在地 **千葉県佐倉市木野子158**設立 **1949年**従業員数 **142名**URL <https://www.tokiwapl.co.jp/>

(2025年12月1日現在)

受賞分野 > **GX分野**
 取組内容 > **植物化学の専門企業が大型工場のカーボンニュートラル化を達成。サステナブルな製品開発・製造と全社を挙げたGX化への取り組みで持続可能な社会の実現へ。**

事業概要

創業以来「植物化学」一筋、幅広い分野で植物に関するあらゆるニーズに対応。1949年の創業以来、植物化学成分（ファイトケミカル）を専門とし、医薬品原薬、健康食品原料、食品添加物、化粧品原料などを製造・供給している。植物成分の抽出・分離、精製に関する幅広いノウハウと製造実績を有している。試薬レベルから工業レベルまで対応可能な生産能力を持ち、国内の大手製薬会社や海外企業との取引も拡大している。

取組内容

国内最大級の植物化学工場で先駆ける、カーボンニュートラルの実現。同社は本社佐倉工場において、使用する電力および熱エネルギーのCO2排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）を達成。再生可能エネルギーの導入や廃棄物のリサイクルなどを通じ、ライフサイクル全体での環境負荷低減と継続可能な事業運営を推進している。

環境経営方針策定による取り組み推進

植物資源の調達から研究、製品化まで、環境・社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指すべく、環境経営方針を策定し、方針のもとで様々な取り組みを行っている。佐倉市ゼロカーボンシティ宣言を支持し、2030年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すほか、第三者機関による分析・評価の結果を踏まえた目標の見直しと改善、4Rの推進、社員への教育を実施している。

プロセス全体における高度なGX戦略

植物資源を扱う企業として環境負荷低減に向けたシステムを構築。大型の本社工場の屋根の90%に太陽光パネルを設置し、使用する全てのガスと電力はカーボンニュートラル化されている。さらに、植物由来の廃棄物も全てリサイクル、排水も自社の水処理施設で浄化するなど、植物を扱う企業として、その取り組みは徹底している。

生産分野にとどまらない、全社を挙げた取り組み

GXの取り組みが評価されたことで、マーケティング面でも大型の投資・受託案件が進行中である。ESGファイナンスによる資金調達も積極的に活用している。また、GX活動などを通じた理念経営の推進で、人材の採用・定着が図られている。**全社を挙げて、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めている。**